

モニター調査  
「新型コロナウイルス感染症対策について」  
(速報版)

2020.10.27.

東京iCDC リスコミボード検討用

放送大学 奈良由美子

早稲田大学 田中幹人

東京大学 武藤香織

# 実施概要

- 目的：東京都民の新型コロナに対する取り組み状況や関心事を明らかにし、今後の対策の参考とする
- 方法：株式会社 プラスアルファ・コンサルティングが保有するモニターへの調査
- 回収目標：20代から70代までを各世代200票（男女100票ずつ）収集する（60代と70代は合わせて200票を目標）
- 調査実施期間：2020年10月15日10時30分～17日13時15分（【参考】10/15陽性者数は284名）
- リード文：

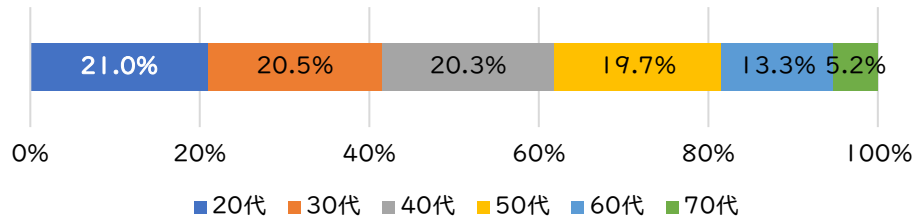
2020年1月以降、世界中で新型コロナウイルス感染が流行しています。このような状況のなか、東京都でも、感染予防対策や検査体制、医療供給体制の強化に取り組んできました。今回のアンケート調査では、今後の都のさらなる対策の参考とするため、新型コロナウイルス感染症対策について、モニターのみなさまのご意見についてお聞きします。

- 設問の構成：

- Q1 東京都民の新型コロナ対策の取り組み状況
- Q2 「コロナ慣れ」等の心情
- Q3 モニタリング分析の知名度
- Q4 冬に向けてほしい情報
- Q5 直面する問題や不安（自由記載）

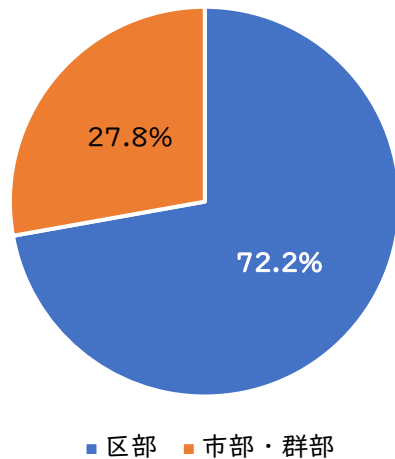
# 基本属性

- N=935 (住所不明者、他府県住所地の者 計121名を除外)
- 男性 470名 女性 465名
- 平均年齢 44.6 ± 14.8歳 (20-79歳)

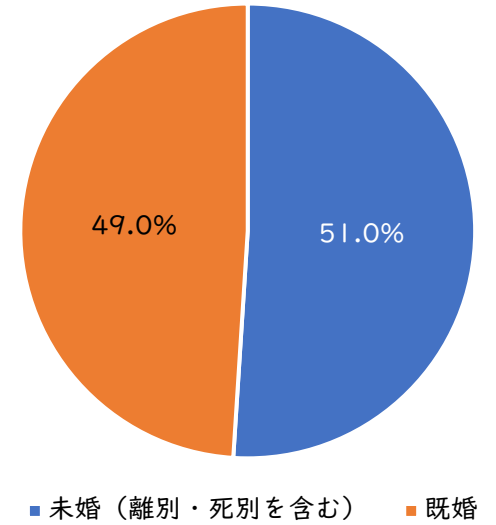


## 居住地

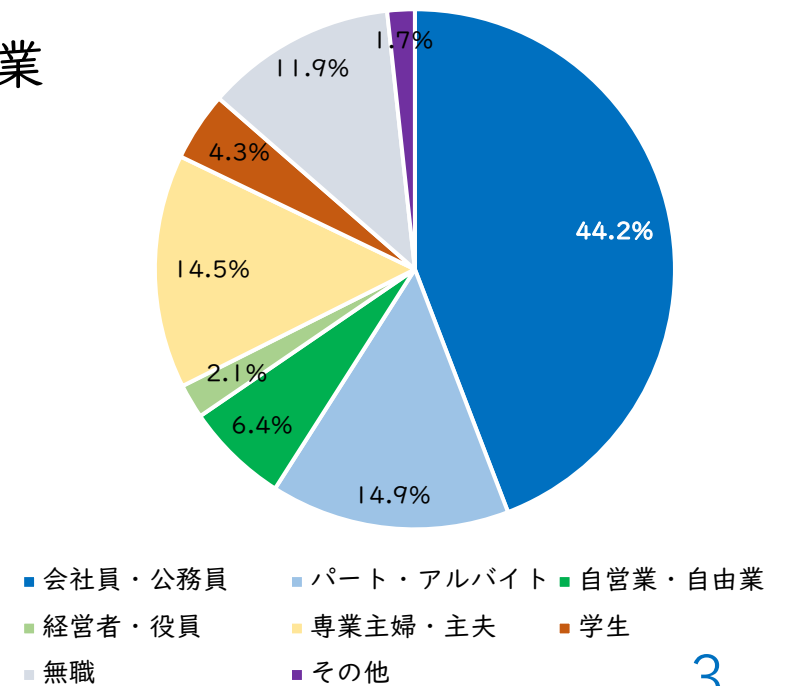
【参考】東京都の人口(推計)(R2)：区部69%、市部・郡部30%



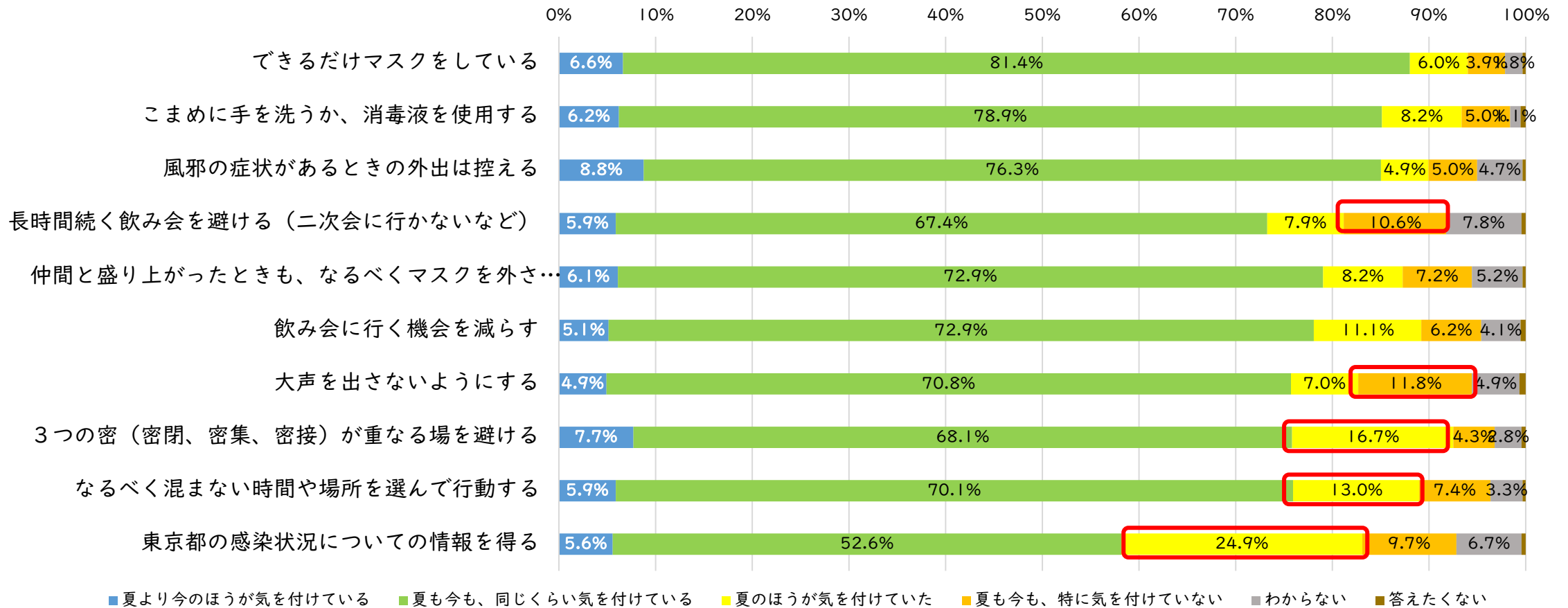
## 婚姻歴



## 職業



■Q1 ■新型コロナの対策について、今年の夏（6～7月、第二波の始まり頃）と比べて、現在のあなたにあてはまるものを一つだけ選んでください。



- マスク、手洗いは、取り組みが維持されている
- 有症状時の外出控え、飲み会での注意などもそれなりに維持
- 「長時間飲み会回避」「大声を出さない」は、他の項目より浸透度に難あり？
- 3密回避、混雑回避、感染状況への関心は、夏より低下傾向

■Q1 ■新型コロナの対策について、今年の夏（6～7月、第二波の始まり頃）と比べて、現在のあなたにあてはまるものを一つだけ選んでください。

## ■男性

- どの項目でも女性より10%程度、気を付け具合が低い
- 飲み会の機会、長時間の飲み会の回避は、女性より10-15%低いうえ、気を付け具合も低下傾向

## ■女性

- 東京都での感染状況への関心の低下（29.5%）

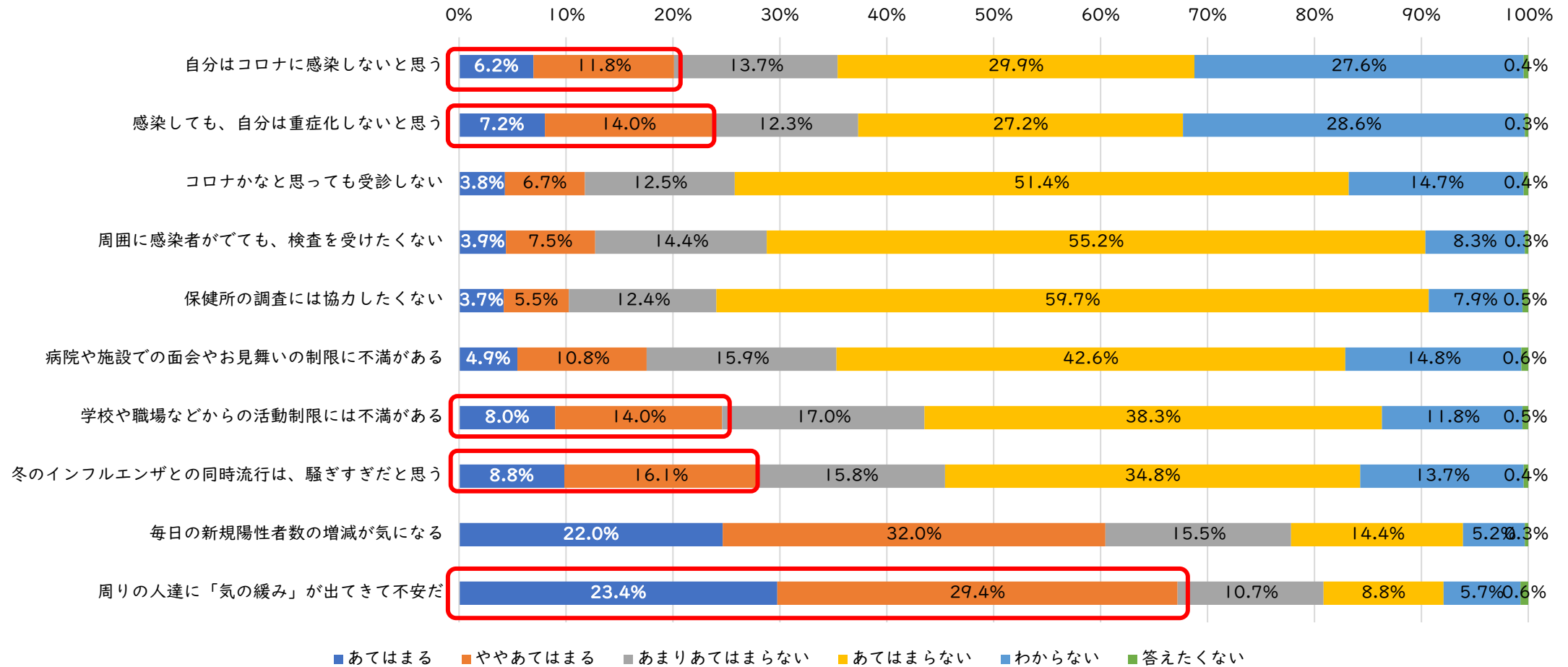
## ■20代

- 夏と同等以上の留意する割合が少なめ： 「3密」回避：（15.3%）、盛り上がった後もマスク装着（13.3%）
- 大声：そもそも気を付けていない割合が高め（16%）

## ■60代以上（N少数）

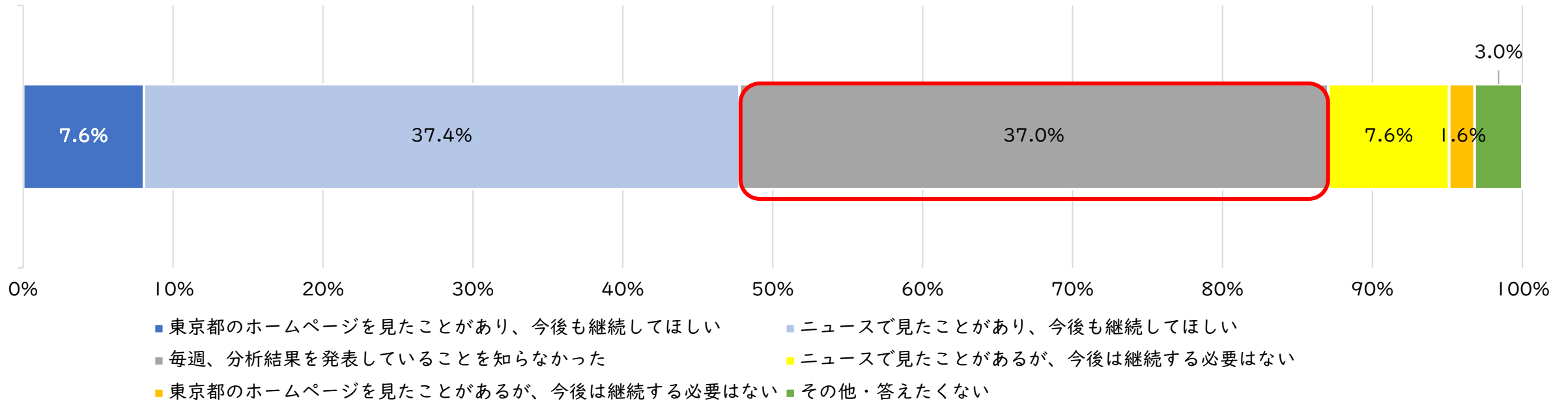
- 風邪症状ありの外出自粛の割合が高い

## ■Q2 ■新型コロナに関して、あなたの気持ちにあてはまるものを一つだけ選んでください。



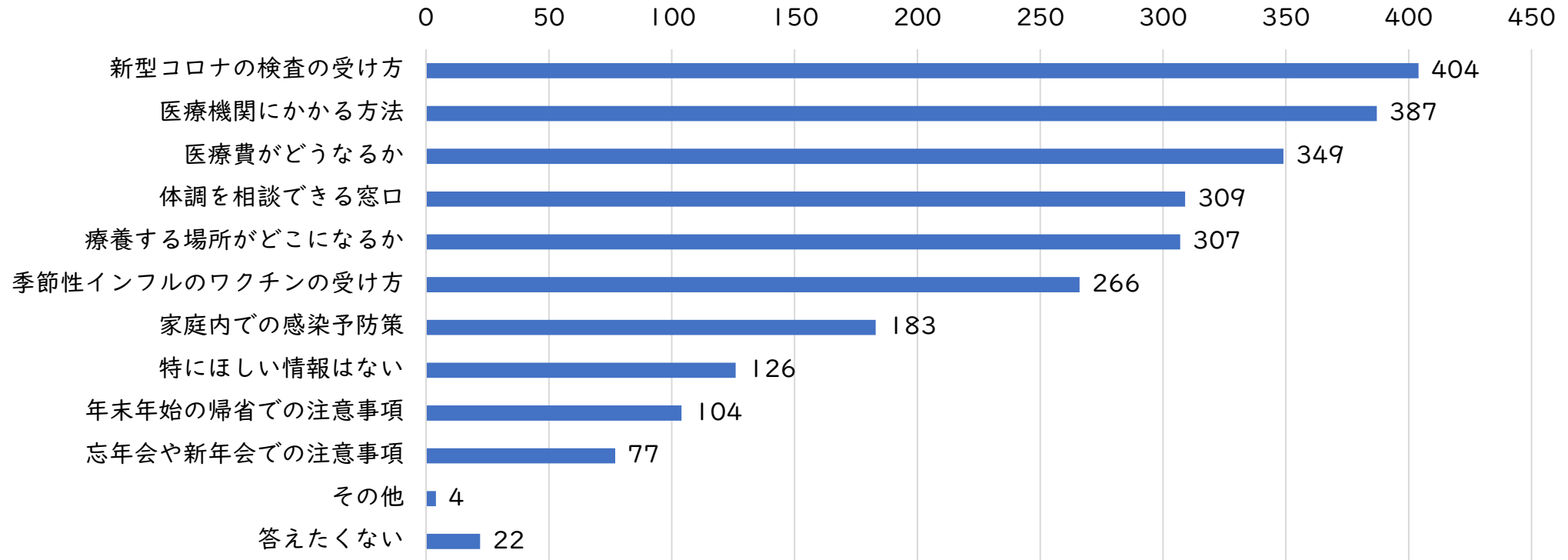
- 自分は感染しない、重症化しないとの回答が2割強ほど存在→20代に多い
- 受診、受検、積極的疫学調査協力などを望まない人との回答が1割強ほど存在
- 活動制限への不満あり、冬に向けて騒ぎすぎとの回答が2割強ほど存在
- しかし、半数強の人々は、新規感染者数の動きや周囲のゆるみを心配に思っている

■Q3 ■2020年7月以来、東京都では、毎日の感染状況や医療提供体制を分析し、その結果を毎週木曜日に発表してきました。この活動について、あなたをご存じでしたか。あてはまるものを一つだけ選んでください。



知らなかった人が37%

■Q4■この冬、新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザの同時流行が心配されており、医療の受け方も変わります。体調変化に備えて、あなたがほしい情報をいくつでも選んでください。



- そもそもほしい情報を選択している回答者が少ない点が気になる (N=935)
- 検査、受診方法、医療費に関する情報は、関心が高い。次いで相談窓口、療養場所。
- 帰省や宴会に関する注意事項は、関心が低め
- 無関心層が1割強程度存在



■Q5■新型コロナに関連して、あなたが直面している問題や不安があれば教えてください。

- 記載があったのは、回答者の3割程度
- 年齢が上昇するほど、書き込む人が増える傾向
- 各年代に共通して、経済面（既に失職や困窮状態）、いつ収束するか、感染リスクが読めない、帰省・親のケア等への不安が登場する
  - 20代では、大学の対応、職場の対策不備、対策しない高齢者への批判など
  - 30代、40代：職場の対策不備、上司の緩み、子どもや学校への影響、メディア批判、対策しない高齢者、活用できていない支援事業など
  - 50代では、経済面での影響、社会の様々な事象への怒りが目立つ（他世代より不機嫌？）
  - 60代以上では、感染の不安、活動制限による生きがい喪失に関する記述など（他世代より元気ない？）